当日資料１

令和8年度 第3回茨木市障害者施策推進分科会 事前意見一覧

NO.	委員名	資料	項目	意見内容	回答
1	富澤委員	素案（49～52ページ）	基本目標2 健康にいきいきと自立した日常生活を送れる	赤字部分は自立支援協議会の答申を反映させた内容と理解すればよいでしょうか。	49～52ページまでにおいて、 50ページ「①自立支援給付事業、地域生活支援事業等の実施」は、現在の本市の地域課題の内容に伴い修正したものです。 51ページ「④地域生活支援拠点等の機能の充実」は、この3年の間に実施した取組等について修正したものです。 52ページ「②精神障害に関する理解促進」は、次期計画における新たな成果目標等の項目である「心のサポーター」に関して修正したものです。 それ以外については、自立支援協議会からの意見を踏まえた修正となります。
2	富澤委員	素案（49～50ページ）	基本目標2 健康にいきいきと自立した日常生活を送れる 施策（1）地域での包括的な相談支援体制	委託相談相談支援事業所について、自立支援協議会の答申の意見の中で事業所数が変わる可能性があることへの不安・危惧があったので、現状と今後について聞きたい。	現状、本来計画相談支援が担うべき業務が委託相談支援の業務を一定量占めているものと認識しているほか、地域における役割や業務範囲の最適化が必要と認識しています。 今後は、委託相談の箇所数の変更等相談支援体制の再編に伴い、基幹、委託、計画相談及び主任相談支援専門員の役割の整理、委託相談の業務範囲等の見直し、委託相談で対応している既にサービスを利用している方について計画相談へのあっせん等の支援を促進するとともに、本市としては相談支援体制の再編に向け委託相談へのフォローアップや計画相談への必要事項の周知や適切な連携の促進を行います。 業者選定については、令和10年度中にプロポーザル方式の実施を検討しています。
3	富澤委員	素案（50ページ）	③計画相談支援等の実施の3つ目の段落の1行目。	誤字 指定自動相談支援事業所	「指定障害児相談支援事業所」に修正します。
4	富澤委員	提案（相談支援体制）		自立支援協議会の答申の意見の中で、連携の困難が挙げられていたため、連携のためのICT活用を検討してはどうか。医療介護連携で使われているメディカルケアステーション（MCS）のようなものを想定。 また、事業所情報（受け入れの空き状況等）をリアルタイムでわかると良いという意見もありICT活用を検討できるのではないか。	既存の情報共有システムの利用を含め、ICT活用について検討いたします。